

日本の女性映画人(2)

—1970-1980年代

Women Who Made Japanese Cinema [Part 2]:

From the 1970s to the 1980s

国立映画アーカイブ

長瀬記念ホール OZU [2階]

定員=310名(各回入替制・全席指定席)

各回の開映後の入場はできません。

2024年2月6日(火) — 3月24日(日)

会期中の休館日: 月曜日



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。
上映会番号471

日本の女性映画人 (2) —1970-1980年代

Women Who Made Japanese Cinema [Part 2]:
From the 1970s to the 1980s

日本映画の歴史において、監督・製作・脚本・美術・衣裳デザイン・編集・結髪・スクリプターなど多様な領域で女性映画人たちが手腕を発揮してきました。2022年度に開催した「日本の女性映画人(1) — 無声映画期から1960年代まで」に続き、1970-80年代に生じた映画界の構造変化の中で躍進した女性映画人たちを重点的に取り上げます。

1950-60年代の撮影所体制のもと田中絹代が監督として異例の活躍を見せた状況から一変して、1970年代以降は独立プロを基盤として、女性監督たちが活路を切り拓いていきます。女優出身の左幸子『遠い一本の道』(1977)や宮城まり子『ねむの木の詩がきこえる』(1977)は社会運動に根差した題材で大きな反響を呼び、自主製作の動向から頭角を現した鷲樹丸は『わらじ片っぽ』(1976)で前衛的表現を開拓しました。1980年代にかけて続々と女性が監督を手がけるようになり、作品の多様化が顕著になっていきます。

一方、撮影所体制がゆらぐ中で、ジャンル映画において女性脚本家たちが台頭してきたこともこの時期の特徴です。『メカゴジラの逆襲』(1975)の高山由紀子や『ビー・バップ・ハイスクール』(1985)の那須真知子などが娯楽映画に新風を吹き込みました。

そして、今回は小特集として、記録映画作家の時枝俊江と藤原智子の業績を再評価します。岩波映画製作所で羽田澄子と並んで活躍した時枝は、音声を画と対等に捉えて革新的なドキュメンタリーを打ち出しました。他方、藤原は女性史を語り継ぐ作品群を手がけています。

特集上映「日本の女性映画人(2) — 1970-1980年代」では、監督・脚本・製作などの分野を中心に、劇映画からドキュメンタリーまで計74作品(47プログラム)を上映します。日本映画の転換期に新機軸をもたらした女性映画人たちの足跡を振り返ることにより、日本映画史の再考につながる新たな視座が切り拓かれることを願っております。

- 監=監督・演出 ◎=原作・原案 脚=脚本・脚色
- ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演
- ◎=声の出演 ◎=解説・ナレーション
- スタッフ、キャスト欄の人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 各作品に携わった女性映画人の名前は青色で表示しています。また、ノン・クレジットで携わった場合も記載しています。
- 記載した上映分数は、当日のものとは多少異なることがあります。
- 不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
- タイトルの横に*印が付いている作品は、公開当時成人指定を受けた作品です。当該の上映回には女性専用席を設けます。
- NEWとある作品は、ニュープリントやDCPなど新たに上映素材を製作しています。

監督

1 3/8(金)13:00 3/17(日)15:30 3/24(日)13:00

鷲樹丸(村上靖子) (計138分)

わらじ片っぽ (53分・DCP・白黒) NEW

女性の自由と抑圧をテーマに時空を交錯させ、台詞無しで描いた実験的作品。多摩ニュータウンの主婦が空飛ぶ島に触発され、鎌倉時代の歩き巫女たちの放浪を夢想する。記録映画助手に従事しつつ8mmや16mmで作品を発表してきた鷲樹丸(本名・村上靖子)が壮大なスケールの自主製作に取り組んだ。16mm原版をもとに作製したDCPでの上映。

1976(コパン・ガジュマル) ◎製作◎編集◎鷲樹丸◎製作◎一色正子◎小村公美子◎日比野幸子◎佐野由紀子◎洪沢まりえ◎浅井真佐◎福本佳豆◎堀田泰寛◎船場文雄◎岡田知之◎よしのまこと◎長坂ひろ子◎島田紀子◎門間勝美◎浅井要美◎宇田川三江子◎高野光弘◎青山定司◎原将人◎宇田川幸洋

きこばたとん (85分・16mm・カラー)

南の島を訪れた神戸の中学生・晶子(守屋)は、老婆(平良)から願いを叶えるティサージュの手織りを習う。両親の離婚話に揺れる少女の成長物語を沖永良部島にて撮影した。大島紬に魅了された村上が7年がかりで実現させた長篇劇映画第1作。

1993(KTS鹿児島テレビ=コパン・ガジュマル=電通映像事業局) ◎企画◎製作◎村上靖子◎協力◎編集◎南とめ◎製作◎青柳教蔵◎川越一路◎神領勝男◎渡辺巨蔵◎岡崎宏三◎菅野由弘◎照喜名朝一◎守屋利恵◎平良とみ◎大森嘉之◎高橋ひろ子◎児玉頼信

2 2/16(金)16:20 2/22(木)19:00 2/24(土)12:30

宮城まり子

ねむの木の詩がきこえる (96分・35mm・カラー)

歌手や女優としての活躍を経て、肢体不自由児などの養護施設「ねむの木学園」を設立した宮城まり子が監督したドキュメンタリーの2作目。自閉症を持つ少年の成長を軸に学園の日常を見つめ、ソフトフォーカスを基調に詩情豊かな映像詩として表現している。

1977(有限会社「ねむの木」) ◎製作◎脚◎宮城まり子◎編集◎沼崎梅子◎岡崎宏三◎平田彦彦◎岡田一美◎大橋裕子◎根岸安子◎佐藤哲也



ねむの木の詩がきこえる

3 2/6(火)19:00 2/10(土)13:00 2/16(金)19:00

左幸子

遠い一本の道 (112分・35mm・カラー)

北海道・道分で働く保線作業員の家族ドラマを通じて、合理化に翻弄される労働者像を描く。国鉄労働組合の協力により線路上での作業や妻たちの内職などの実情をドキュメンタリー的に撮影したシーンも含む。個人と社会の関わり合いというテーマを重視した左幸子は、取材をもとに脚本になかった細部を盛り込んで力強い作品に仕上げた。

1977(左プロ=国鉄労働組合) ◎企画◎製作◎左幸子◎藤沢すみ子◎宮本研◎瀬川順一◎育野重一◎三木稔◎井川比佐志◎磯村健治◎市毛良枝◎長塚京三

4 2/23(金)15:50 2/28(水)12:30

沖山秀子/珠瑠美 (計121分)

グレープフルーツのような女 性乱の日々* (61分・35mm・カラー) NEW

スタイリストの律子(北原)はミュージシャンとの熱愛と孤独感の狭間で揺れ動きながら、自らの道を歩んでゆく。『神々の深き欲望』(1968、今村昌平)で女優デビューを飾った沖山秀子は、活動休止期間を経て復帰し、本作では自作脚本により監督に進出。ジャズシンガーとしても活躍しながら自伝小説も発表して多面的な活動を模索した沖山が、鮮烈な女性像を表現している。日活ロマンポルノ配給作品。

1981(プロダクション鷹) ◎◎沖山秀子◎鷹野聖一郎◎板橋文夫◎北原理絵◎峰耀二◎珠瑠美◎水月円◎初山弘生

熟女スワップ若妻レス 乱行恥態

[[熟女スワップ 獣のように]]改題版* (60分・35mm・カラー)

女優出身の珠瑠美が、監督・脚本・主演の三役を手がけたピンク映画。女性社長(珠)が強権をふるって目下の男女を従わせて性的放埒に耽る。1965年にピンク映画で主演デビューした珠は、1981年から監督として多作し、プロダクション鷹を牽引した。

1994(プロダクション鷹) ◎◎◎珠瑠美◎伊東英男◎衣笠介◎MGC◎羽田勝博◎二階堂美穂◎松下英美◎真央元◎神戸顕一



遠い一本の道



わらじ片っぽ

5 2/21(水)19:10 2/24(土)15:10 3/1(金)19:00

栗崎碧

曾根崎心中 (88分・35mm・カラー)

人形浄瑠璃を映画化した、野外セットの中で文楽人形の演技を自由なアングルから捉えた。人間国宝を含む一流の人形遣いたちや、名撮影監督・宮川一夫や美術の内藤昭など旧大映のスタッフが参加。ベルリンをはじめ多くの海外映画祭で評価された。1950年代に芸名・南左斗子で大映作品に出演した栗崎碧は、1970年代から記録映画を監督し、古典芸能を題材とした劇映画第1作『黒髪』(1980)に続いて本作を手がけた。

1981(栗崎事務所)◎栗崎碧 記録 佐藤トシ子 協力編集 南とめ ◎近松門左衛門 ◎宮川一夫 ◎内藤昭 ◎吉田玉男、吉田襄助、吉田玉幸、桐竹一暢、桐竹勘寿

6 2/27(火)17:40 3/6(水)12:30

倉岡明子

六ヶ所人間記 (171分・16mm・白黒)

新全国総合開発計画の対象となった六ヶ所村での昔ながらの暮らしへの住民の思いを綴ったドキュメンタリー。青森県出身の倉岡明子が1982年から3年にわたり取材し、1984年の核燃料サイクル施設立地要請の公表により開発問題に揺れた時期が背景となった。倉岡が撮影に同伴した息子の2歳から5歳にかけての成長も記録されている。1970年代にアテネ・フランセ文化センターで上映事業の基礎を築いた倉岡は、映画技術・美学講座も主宰・運営したうえ、卒業制作作品『東京クロム砂漠』(1978)に制作者として携わったのが第1作となった。

1985(構成 製作 倉岡明子 構成 録音 編集 山部伸貴 ◎小田博 途中10分間の休憩をはさみます。

7 2/22(木)16:10 3/3(日)16:00

楳坪琴鶴子

若人よ いのちと愛のメッセージ (104分・35mm・カラー)

高校生の妊娠を題材にした教育映画。広島を舞台に、妊娠して恋人から疎んじられる悠子(大高)と出産を親に反対されて家出する恵利(久保田)をめぐる彼女たちの高校では動揺が広がり、避妊や中絶も含めて性教育が見直される。広島出身の楳坪琴鶴子は、スクリーンを経てプロダクションを立ち上げ、1986年から2009年にかけて7本を監督した。

1987(企画制作バオ)◎製作 楳坪琴鶴子 製作(プロデューサー) 中川節子 ◎下島三重子 記録 沢田享子 協力編集 岡安和子(プロデューサー) 光永憲之 ◎河野美代子 ◎藤沢順一 ◎小室等 ◎大高直子、久保田理香、増田順子、吉岡聖子、藤原弘行、杉本和宏



曾根崎心中



よみがえれレース

8 2/28(水)15:40 3/2(土)19:00

浜野佐知

(計111分)

ダブルEカップ 完熟*

(58分・35mm・カラー)

華道「亀甲流」に入門した女性たちが秘伝の「真・生け花」の奥義を伝授されるという、コミカルな芸道物ピンク映画。助監督出身で1972年に監督デビューした浜野佐知は、ピンク映画を300本以上多作したうえ1998年より一般映画も手がけている。『第七官界彷徨 尾崎翠を探して』(1998)以降、海外の女性映画祭にも数多く招待された。

1988(巨々舎)◎浜野佐知 ◎小多魔若史 ◎山崎邦紀 ◎福吉雅志 ◎東上千 ◎池島ゆたか、速水舞、河合奈保、相原久美、秋本ちえみ

(生)性体験 世にもみだらな女たち

『アブノーマル・ペッティング』改題*

(53分・35mm・カラー)

女性だけでAV鑑賞会をした女子大生、人妻、スナックのママが、三者三様の方法で性的探究を極めようとする。「女の性を女の手に取り戻す」という信念を貫く浜野佐知による、能動的な女性の性を題材にしたピンク映画。

1989(メディア・トップ)◎浜野佐知 ◎山崎邦紀 ◎福吉雅志 ◎数中博章 ◎大沢裕子、早瀬美奈、風間ひとみ、池島ゆたか

9 2/29(木)16:00 3/9(土)13:00

熊谷博子(1)

よみがえれレース

(116分・16mm・カラー)

内戦が続いたアフガニスタンで、カレズと呼ばれる地下水脈を守り続ける人々の営みを伝えるドキュメンタリー。テレビを中心に映像ジャーナリストとして活躍してきた熊谷博子は本作に共同監督として参加し、ソ連軍が撤退を開始した1988年5月から5ヶ月にわたる現地撮影を行ない、戦死者を悼む墓地の女性たちや自衛する農民たちなどを取材した。その後、熊谷は三池炭鉱を扱った作品群を経て、ハンセン病回復者を8年がかりで撮った新作『かつぶしの』を2024年3月に劇場公開するなど地道な活動を続けている。

1989(記録社=シグロ)◎熊谷博子 ◎高田みどり(協力編集)清水千恵子 ◎土本典昭、アブドゥル・ラティーフ ◎一瀬正史、高岩仁 ◎伊藤惣一

10 2/20(火)19:00 3/3(日)13:00 3/9(土)16:00

熊谷博子(2)

映画をつくる女性たち

(103分・DCP・カラー)NEW

日本の女性監督たちが映画作りについて語るドキュメンタリー。1985年からの東京国際女性映画祭で作品が上映された20人以上を取り上げ、羽田澄子、宮城まり子、村上靖子、栗崎碧、楳坪琴鶴子、高山由紀子、藤原智子、浜野佐知、岡本みね子、高野悦子などに撮り下ろしてインタビューしている。DVCAM原盤をもとに作製したDCPでの上映。

2004(東京国際女性映画祭実行委員会)◎熊谷博子 ◎馬場宏子 ◎本田成子 ◎大橋富代 ◎中里雅子

脚本家

11 2/9(金)16:10 2/11(日)13:00 2/15(木)19:00

宮内婦貴子

その人は女教師

(93分・35mm・カラー)NEW

学園紛争を背景に女性教師と男子高校生の恋愛を描く。着想のもとになったフランス五月革命下の実話では女性教師が自殺する結末だったが、それを逆転させて脚本化した、苦渋の中で生き続けることにより女性が主体性を確立する困難さを印象付けようとした。宮内婦貴子は東宝シナリオ研究生を経て、日活と契約して1963年にデビュー後、1968年からフリーで活動。

1970(東京映画)◎宮内婦貴子 ◎廣瀬千鶴 ◎出目昌伸 ◎黒田徳三 ◎小島基司 ◎池野成 ◎岩下志麻、三船史郎、神田隆、一の宮あつ子、北城真記子、戸浦六宏、中北千枝子

12 2/13(火)19:00 2/21(水)16:40

服部佳

新座頭市物語 笠間の血祭り

(87分・35mm・カラー)NEW

帰郷した盲目の侠客・座頭の市(勝)は、幼馴染みの商人(岡田)らの悪事を知って立ち向かう。シリーズ第25作として、定石の物語を活かし悪役を際立たせながら、フーテン族風の若者描写なども書き込んでいる。服部佳(佳子)は、日活でスクリーンを経て脚本家に移り、『忍びの者 伊賀屋敷』(1965、森一生)で脚本家デビュー。1969年以降はフリーで、TVドラマ「木枯し紋次郎」(1972-73)や映画で活躍した。

1973(勝プロ)◎服部佳 ◎安田公義 ◎母子沢寛 ◎牧浦地志 ◎太田誠一 ◎伊福部昭 ◎勝新太郎、十幸幸代、岸部シロー、岡田英次、佐藤慶、志村喬、横山リエ

13 2/15(木)16:00 2/17(土)13:00

重森孝子

二十歳の原点 (88分・35mm・カラー)

ベストセラーとなった、自殺した女子大生の手記をもとに映画化。学園紛争後の挫折感や若者の焦燥をテーマに、理想と現実の狭間で揺れ動く悦子(角)の最後の半年間を京都を舞台に描く。「死を賛美する風には描けなかった。ただ生きたい生きたいと願いながら、ずうずうしくなれなかった女として描いてみるより方法がなかった」と述べた重森孝子は、本作を含む70年代の東宝青春映画の他に『泥の河』(1981、小栗康平)等も執筆している。

1973(東京映画)◎重森孝子 ◎山田早智子 ◎大森健次郎 ◎高野悦子 ◎森谷司郎 ◎中井朝一 ◎樋口幸男 ◎小野崎孝輔 ◎角ゆり子、大門正明、地井武男、鈴木瑞穂

14 2/8(水)13:00 2/11(日)16:00 2/13(火)15:00

大野靖子

沖田総司 (92分・35mm・カラー)

1960年代から続く新選組ブームの中、オリジナル脚本で時代劇に現代的な人物造型を盛り込んでいる。友情に青春を賭けた若者像を描き、東宝青春映画路線の中で次々に女性脚本家と組んできた出目昌伸が芸術祭参加作品を手がけた。1962年以降テレビで現代劇も含めて幅広く活躍していた大野靖子は、1966年から映画に進出し大作に携わった。

1974(東宝映画)◎大野靖子 ◎出目昌伸 ◎原一民 ◎阿久根巖 ◎真鍋理一郎 ◎草刈正雄、真野響子、高橋幸治、米倉育年、小松方正、河原崎次郎、池波志乃

15 2/7(水)13:00 2/14(水)19:00 2/18(日)12:30

高山由紀子

メカゴジラの逆襲 (83分・35mm・カラー)

真船博士(平田)の娘・桂(藍)と海洋開発研究所の一之瀬(佐々木)との悲恋を軸にした「ゴジラ」シリーズ第15作。サイボーグ少女がメカとシンクロするという設定は先駆的と言える。シナリオ学校での脚本コンペにより起用された高山由紀子は、女性を主役にしたゴジラを書いてみたかったと語り、同シリーズ初の女性脚本家となった本作を誇りとした。後年に高山は監督に進出し、『風のかたみ』(1996)と『娘道成寺 蛇女の恋』(2004)という時代物ファンタジー2本を手がけている。

1975(東宝)◎高山由紀子 ◎本多猪四郎 ◎富岡素敬 ◎本多好文 ◎伊福部昭 ◎特技監督 中野昭慶 ◎佐々木彦彦、藍とも子、平田昭彦、内田勝正、麻里とも恵、睦五郎、中丸忠雄



新座頭市物語 笠間の血祭り

16 2/14(水)13:00 2/23(金)12:30

鹿水晶子／木村智美 (計134分)

団地妻 二人だけの夜*

(70分・35mm・カラー) **NEW**

「団地妻」シリーズの第19作として、脚本に捻りを加え「団地夫」を主演にした諷刺コメディ。妻・益子(珠)に頭が上らない夫・六次郎(鶴岡)に転機が訪れる。夫婦間の抑圧と暴力、拜金主義を戯画的に描く。1970年代の大手撮影所のうち、若手脚本家が書ける場として日活に活路を見出した鹿水晶子は、1975年から84年にかけてロマンポルノ作品19本を執筆した。

1978(日活)◎鹿水晶子◎林功◎山崎敏郎◎川船夏夫◎佐藤健◎鶴岡修、珠瑠美、志麻いづみ、梓ようこ、小川亜佐美

イヴちゃんの花びら*

(64分・35mm・カラー)

夏の避暑地を旅する自由奔放なヒロイン(イヴ)を主軸に、出会った男女たちとの性交愛を描く。「新宿歌舞伎町のアイドル」と称されたイヴの映画第1作で、『キャンディ』(1968、クリスチャン・マルカン)をモチーフにしている。シナリオ・センター出身の木村智美は、ロマンポルノ脚本公募を経て1982年に21歳でデビューし、若者向け路線のロマンポルノ作品などを手がけた。

1984(につかつ)◎木村智美◎中原俊◎米田実◎沖山真保◎山川繁◎イヴ、太田あや子、木築沙絵子、金田明夫、長江洋平、掛田誠、花上晃

17 2/15(木)13:00 2/17(土)15:30

田中晶子

ダイヤモンドは傷つかない

(104分・35mm・カラー) **NEW**

『早稲田文学』に掲載され話題となった同名小説を映画化し、妻も愛人もいる中年の予備校講師と女子大生の恋愛ドラマを描く。田中晶子は第29回新人映画シナリオコンクールに史上最年少の18歳で入選したうえ、『鉄騎兵、跳んだ』(1980、小澤啓一)により20歳で脚本家デビュー。田中は脚本改稿を厭わず、本作では藤田敏八の直しの注文に応じてクランクアップ数日前まで粘り強くラストシーンを考え続けた。

1982(東映)◎篠間里江子◎田中晶子◎小山三樹子◎藤田敏八◎藤田敏八◎吉田達、岡田裕◎三石由起◎武村正毅◎桑名忠之◎井上堯之◎田中美佐子、山崎努、加賀まりこ、朝丘雪路、石田えり

18 2/8(木)15:40 2/16(金)13:00

筒井ともみ

それから(130分・35mm・カラー・英語字幕付 with English subtitles)

『家族ゲーム』(1983)の森田芳光＝松田優作コンビが夏目漱石の代表作の映画化に挑んだ作品。現代的な感覚のもと原作の台詞を活かしながら抑制された心理描写を行い、キネマ旬報ベスト・テン脚本賞を受賞するなど高く評価された。本作で本格的な映画脚本家デビューを飾った筒井ともみは、さらに森田作品を3本執筆した。

1985(東映)◎筒井ともみ◎森永恭子◎藤裕美子◎柴田リツ子◎北村道子◎北村道子◎高島由里子◎三沢和子◎森田芳光◎夏目漱石◎前田米造◎今村力◎梅林茂◎山田実◎飯塚滋◎松田優作、藤谷美和子、小林薫、美保純、笠智衆、草笛光子、中村嘉津雄

19 2/8(木)19:00 2/14(水)16:20

那須真知子

ビー・バップ・ハイスクール

(95分・35mm・カラー)

ツッパリ二人組の青春をコミカルに描き、男性中心の作劇の中で女性登場人物たちの機転の利いた台詞が際立つ。人気漫画を原作とする学園アクション物で、大ヒットして第6作までシリーズ化された。1977年にシナリオ公募により日活ロマンポルノで脚本家デビューした那須真知子は、夫の那須博之と組んだ娯楽映画をはじめ、文芸大作など幅広く活躍。

1985(セントラル・アーツ)◎那須真知子◎内田絢子◎安和子◎那須博之◎きょうちかずひる◎森勝◎大嶋修一◎渡辺博也◎清水宏次朗、仲村トオル、中山美穂、宮崎ますみ

製作者

20 2/27(火)15:00 2/29(木)19:10

小林佐智子

極私的エロス・恋歌1974

(93分・16mm・白黒)

小林佐智子は第1作『さようならCP』(1974)以来、原一男と組んで先鋭的な映画作りを続けている。本作では、原の元恋人であるウーマン・リブ活動家の武田美由紀から依頼され、沖繩へ渡った武田が東京に戻り自力出産するさまを記録する。現パートナーとして小林も画面に登場し、三角関係の中で女性たちの主体性が前景化され、当事者の原に撮影を促す。

1974(疾走プロ)◎小林佐智子◎加藤登紀子◎原一男◎久保田幸雄◎鍋島博

21 2/20(火)15:00 2/25(日)12:30

原田美枝子

ミスター・ミセス・ミス・ロンリー

(139分・35mm・カラー)

『青春の殺人者』(1976、長谷川和彦)などの演技で高く評価された原田美枝子が、枠に囚われない新たな映画をめざして自ら製作と共同脚本(筆名・利那)を手がけた。浮遊する少女(原田)と二人の男たち(宇崎、原田)によるピカレスク・ロマンを描く。

1980(市山パースル＝ATG)◎原田美枝子◎利那◎影島正一◎芦沢明子◎津田の子◎山田早智子◎南とめ◎田内道世◎神代辰巳◎市山達己、佐々木史朗◎押切隆世◎前田亮、星野和弘◎大谷和正◎千野秀一◎宇崎竜童、原田芳雄、三国連太郎

22 2/6(火)14:30 2/18(日)15:00 2/24(土)17:50

高野悦子

恋の浮島 A Ilha dos Amores

(169分・35mm・カラー・日本語字幕付)

明治から昭和初頭に日本に住んだポルトガル人作家モラエスの半生を題材にした、日本とポルトガルの合作映画。パウロ・ローシャとフランスの高等映画学院の同窓生でもある高野悦子は、1968年から岩波ホール支配人として世界の名作を紹介し、1985年から東京国際女性映画祭にも尽力した。

1982(スマ・フィルム)◎高野悦子◎羽田澄子◎パウル・ローシャ◎ルイザ・ネト・ジョルジュ、渡辺守章、載震◎岡崎宏三、アカシオ・テ・アルメイダ、エルソ・ロク◎クリスティナ・レイス、パティカ、坂口武玄◎パウル・ブランドトン◎ルイス・ミゲル・シントラ、クララ・ジュアナ、三田佳子、村雲敦子

23 2/7(水)19:00 2/10(土)16:00

大林恭子

廃市(106分・16mm・カラー)

大林宣彦の自主映画『絵の中の少女』(1958)に出演した大林恭子は、『転校生』(1982)以降は製作者としても協働した。『時をかける少女』(1983)の大ヒット後に、一転して小規模作品に仲間を募り、長年温めていた企画の映画化を実現した。

1984(PSC＝新日本制作＝ATG)◎大林恭子◎黒岩美穂子◎川岸喜美枝◎岡野千江子◎大林恭子◎大林宣彦◎佐々木史朗、島田親一◎福永武彦◎内藤誠、桂千穂◎阪本善尚◎薩谷和夫◎宮崎尚志◎小林聡美、山下規介、根岸季衣、峰岸徹、尾美としのり



恋の浮島

24 2/28(水)18:50 3/2(土)15:40

朝倉大介(佐藤啓子) (計123分)

人妻の悶え ザ・不倫

[[狂った情事 おしゃぶり]改題版]*

(61分・35mm・カラー)

不倫を題材に男女の行き違いの心理を描き出したピンク映画の秀作。若松孝二や高橋伴明らの助監督を経て、製作集団「ユニット5」を水谷俊之、福岡芳徳、米田彰、周防正行と結成した磯村一路の監督5作目。国映にて朝倉大介という名義を引き継いだ佐藤啓子は、50年以上にわたり1000本以上を製作し、数多くの作家たちを育て続けている。

1981(国映)◎朝倉大介◎磯村一路◎長田勇市、斉藤幸一◎坂口博樹◎朝霧友香、蒙田路世留、沢木みみ、宮田諭、西岡琢也、下元史郎

変態家族 兄貴の嫁さん*

(62分・35mm・カラー)

「ユニット5」に参加していた周防正行の監督デビュー作で、シナリオ題名『お嫁さん日和』のもと小津安二郎へのオマージュを込めたピンク映画。朝倉大介名義で製作を手がけた佐藤は、将来性に賭けて若手監督たちの作家性の強い映画作りを尊重した。佐藤は、80年代後半には瀬々敬久などの「ピンク四天王」、90年代以降にはいまおかしんじを含む「ピンク七福神」といった個性豊かな作家たちを送り出している。

1984(国映)◎朝倉大介◎周防正行◎長田勇市、滝彰志◎種田陽平、矢島周平◎周防義和◎風かおる、山地美貴、麻生うさぎ、大杉漣、下元史郎、首藤啓、深野晴彦

25 2/9(金)18:50 2/22(木)13:00

飯野久

黒い雨(123分・35mm・白黒)

広島への原爆投下による黒い雨を浴びた後の人生を題材に、敗戦から5年後の矢須子(田中)の結婚話をめぐり、原爆症や心身の戦争後遺症を抱えながら懸命に生きる人々の悲喜劇を描く。本作で藤本賞・新人賞を受賞した飯野久は、横浜放送映画専門学院を卒業後の1978年に今村プロに入社し、81年からは取締役となり今村昌平作品の製作を担った。

1989(今村プロ＝林原グループ)◎飯野久◎中田秀子◎今村昌平◎井伏鱒二◎石堂淑朗◎川又昂◎稲垣尚夫◎武満徹◎田中好子、北村和夫、市原悦子、石田圭祐、山田昌、小沢昭一



廃市



黒い雨

26 2/7(水)15:40 2/25(日)16:00 3/12(火)18:50

岡本みね子

大誘拐 RAINBOW KIDS

(120分・35mm・カラー)

若者三人組に誘拐された82歳の資産家女性(北林)が、誘拐犯たちを手玉に取って主導権を握る痛快な犯罪コメディ。『肉弾』(1968)から岡本喜八作品の製作に携わってきた岡本みね子は、1974年に喜八プロダクションを設立し、本作で藤本賞を受賞した。他に浅井慎平や高山由紀子の監督作も製作し、自らも『ゆずり葉の頃』(2015)を中みね子名義で監督している。

1991(喜八プロダクション=ニチメン=フジエイト) 製作 岡本みね子 監修 山内薫 脚本 石川靖江 監演 岡本喜八 製作 田中義巳、安藤甫 監製 天藤真 岸本正広 西岡善信、加門良一 監製 佐藤勝 北林谷栄、緒形拳、樹木希林、風間トオル、水野久美、天本英世、岡本真実 監修 寺田農

美術監督

27 3/1(金)15:30 3/10(日)13:00

朝倉摂

修羅 (134分・35mm・パートカラー)

赤穂浪人・薩摩源五兵衛(中村)は仇討資金を隠れた芸者につき込むが、裏切られたと知り復讐する。鶴屋南北作品を下敷きに、凄惨な殺人に追い込まれてゆく不条理な状況を描いた野心作。絵画や舞台美術で活躍していた朝倉摂は、松本俊夫の前作『薔薇の葬列』(1969)も担当したが、本作では大胆な発想によるミニマルな美術セットが際立っている。

1971(松本プロ=ATG) 製作 朝倉摂 監修 佐寿枝 監演 内田絢子 監製 松本俊夫 鶴屋南北、石沢秀二 鈴木達夫 中村賀津雄、三条泰子、唐十郎、今福正雄

28 2/17(土)18:20 2/21(水)13:00

菊川芳江

(計147分)

四疊半襖の裏張り* (71分・35mm・カラー)

大正中期の争乱の世相を背景に、東京・山の手の花街での色事を描いたロマンポルノの代表的作品。料亭と芸者置屋や周辺の情景など重厚な美術により時代性を表現している。菊川芳江は1954年に日活に入社し、美術助手としてプログラム・ピクチャー量産期を担い、1972年に一本立ちしてロマンポルノの秀作群で活躍した。

1973(日活) 製作 菊川芳江 監演 神代辰巳 監製 永井荷風 監製 真久 宮下順子、江角英明、丘奈保美、絵沢萌子、芹明香

江戸川乱歩猟奇館 屋根裏の散歩者*

(76分・35mm・カラー)

江戸川乱歩の「屋根裏の散歩者」と「人間椅子」を翻案したロマンポルノ作品。大正末期の浅草の退廃的ムードあふれる美術の中で、田中登=いどあきおの名コンビによる背徳的官能世界が展開される。

1976(日活) 製作 菊川芳江 監演 田中登 監製 江戸川乱歩 監製 いどあきお 監製 藤勝 監製 藤科二郎 監製 宮下順子、石橋蓮司、長弘、渡辺とく子、八代康二



大誘拐 RAINBOW KIDS



修羅

29 2/9(金)13:00 2/10(土)18:50

星笠恵子

ウンタマギルー (120分・35mm・カラー)

米軍統治下で日本復帰に揺れ動く1969年の沖縄を舞台に、義賊の民話を下敷きとして超能力を得た青年の活躍を幻想的に描く。高嶺剛の劇場用長篇第2作であり、ベルリン国際映画祭など国内外で高く評価された。星笠恵子は1970年に小劇場の舞台美術からキャリアをはじめ、75年から映画にも進出。

1989(パルコ) 製作 星笠恵子 監演 南とめ 監製 高嶺剛 監製 田村正毅 監製 上野耕路 監製 小林薫、戸川純、ジョン・セイルズ、照屋利助、宮里栄弘

実験映画

30 3/2(土)13:00 3/8(金)16:40

出光真子

(計91分)

日本の女性映像作家の先駆者の一人である出光真子は、1970年代からフィルムとビデオで作品を発表してきた。高感度フィルムで光を捉えた『AT YUKIGAYA TWO』では、日本を飛び出し20代をアメリカで過ごした出光が、帰国後に日米いずれにも属していないという心象風景を表現した。『父の情景』は、出光興産創業者である父の死後半年を経て、愛憎相半ばする父親を偲ぶ作品。『たわむれときまぐれ』では、日常風景の中に冬の日差しと影を写し取りながら、子離れ後の母親としての自身の心象を語る。『ざわめきのもと』は、木陰の詩的な映像と亡き母をめぐるモノローグを重ねた。『加恵、女の子でしょ!』では、女性がアーティストとして活動するうえでジェンダーロールが足枷となる点に着目し、芸術家カップルに起きる問題を戯画化して描く。ビデオ作品として作られたが、当時のキネコ16mmネガから作製したDCPでの上映。

AT YUKIGAYA TWO (11分・16mm・白黒)

1974 製作 出光真子

父の情景 (6分・16mm・カラー)

1981 製作 出光真子

たわむれときまぐれと

(16分・16mm・カラー)

1984 製作 出光真子

ざわめきのもと (11分・16mm・カラー)

1985 製作 出光真子

加恵、女の子でしょ!

(47分・DCP・カラー) NEW

1996 製作 出光真子



ざわめきのもと

© STUDIO IDEMITSU



加恵、女の子でしょ!

© STUDIO IDEMITSU

31 3/1(金)13:00 3/10(日)16:30

九條映子 / 田中未知

(計81分)

戦後の日本アンゲラ演劇の旗手であり、詩人、写真家、映画作家など多岐にわたり活躍した寺山修司。九條映子、そして田中未知は、劇団「天井桟敷」にも携わるとともに、さまざまな実験を試みた寺山の映画作りにも貢献した。『迷宮譚』はスクリーンをドアに見立てて無限の世界を表現し、カンヌ国際映画祭監督週間にも正式招待された。イメージを皮膚になぞらえた『疱瘡譚』では、疫病のように伝染するさまを描く。『審判』では、あらゆる物に釘が打ち込まれ、スクリーンの境界がメタ構造として示される。

迷宮譚 (16分・16mm・カラー)

1975(映画実験室 人力飛行機舎) 製作 九條映子 製作 田中未知 監演 大島ともよ 監製 寺山修司 監製 福元文一 監製 新高恵子、蘭妖子、佐々田季司、目黒茂、植田紀美江

疱瘡譚 (31分・16mm・カラー)

1975(映画実験室 人力飛行機舎) 製作 九條映子 製作 田中未知 監演 大島ともよ 監製 寺山修司 監製 鈴木達夫 監製 新高恵子、蘭妖子、小野正子、中沢清、佐々田季司

審判 (34分・16mm・カラー)

1975(映画実験室 人力飛行機舎) 製作 九條映子、田中未知 監演 大島ともよ 監製 寺山修司 監製 福元文一 監製 J・A・シーザー 監製 新高恵子、蘭妖子、佐々田季司、目黒茂、植田紀美江

アニメーション

32 2/29(木)12:30 3/5(火)18:30

アニメーション作品集

(計141分)

ピカドン (9分・16mm・カラー)

広島朝の日常風景を一変させた原爆投下による惨状を描写する。木下小夜子は、木下蓮三との協働により現代史を扱った作品で国際的に評価され、本作をきっかけに広島国際アニメーションフェスティバルを立ち上げて運営に尽力した。

1978(スタジオ・ロータス) 製作 アニメーション 木下小夜子 監演 木下蓮三 監製 磯部覚、稲谷昭一郎 小六礼次郎

水仙月の四日 (11分・16mm・カラー・英語

字幕付 with English subtitles)

宮沢賢治の童話をもとにした詩情豊かな人形アニメーションで、海外映画祭で高く評価された。岡本忠成に師事した長崎希は自社プロダクションを主宰し、様々な素材によるアニメーションを手がけている。

1990(N&Gプロ) 製作 アニメーション 長崎希 製作 人形 保坂純子 人形 渡辺雅子、船橋啓子 監演 川下倫子、岸田香代子 監製 相沢尚子 監製 宮沢賢治 監製 田村実 監製 杉浦正嘉

火の鳥2772 愛のコスモゾーン

(121分・35mm・カラー)

漫画「火の鳥」シリーズをもとに手塚治虫が新たなSFストーリーを構築した作品。中村和子は、東映動画で『白蛇伝』(1958、戴下泰司)等に携わり、1962年に虫プロに入社して原画や作画監督を経て、本作では日本映画における女性アニメーションディレクター第1号となった。

1980(東宝=手塚プロ) アニメーションディレクター 監演 中村和子 監製 手塚治虫 監製 杉山卓 アニメーションディレクター 監製 石黒昇 監製 八巻馨 監製 伊藤信治、松本強 監製 樋口康雄 監製 塩沢兼人、三輪勝恵、竹下景子



火の鳥2772 愛のコスモゾーン

小特集 I 時枝俊江

1951年に岩波映画製作所に入社した時枝俊江(1929-2012)は社会教育、紀行、伝統文化などさまざまな題材で100本以上を手かけ、特に幼児教育をめぐる作品にライフワーク的に取り組んだ。「音声は画と対等」と捉えて革新的なドキュメンタリーを打ち出した映画作家である。

33 3/13(水)19:00 3/21(木)13:00

初期作品集 (計89分)

実質的な監督デビュー作と時枝自身が語っている『町の政治』では、東京郊外の国立で主婦たちによる町政の勉強会の活動を取材した。『This is TOKYO』は、日本政府観光局(JNTO)の企画による海外向けの観光映画として東京の新旧の魅力を紹介し、英語ナレーションを付けた作品。東京ガスのPR映画『新しいガス源をもとめて』では、エネルギー革命を背景に油田ガスや天然ガスの供給を躍動的な映像で捉えた。

町の政治 べんきょうするお母さん

(31分・16mm・白黒)

1957(岩波映画製作所) 監時枝俊江 藤瀬季彦 片山幹夫 和田実枝子

This is TOKYO(28分・16mm・カラー)

1960(岩波映画製作所) 編時枝俊江 京極高英 藤瀬季彦 團伊玖磨

本作には日本語字幕が付いていません。

新しいガス源をもとめて

(30分・35mm・カラー) NEW

1965(岩波映画製作所) 監時枝俊江 牧衷 符谷篤 原田甫 新藤丈夫

34 3/14(木)15:30 3/15(金)19:00 3/20(水)16:00

夜明けの国(110分・35mm・カラー)

もともと中国で撮影するドキュメンタリーを準備しており、入国初日に中国共産党による文化大革命の声明があったが、半年間にわたり北京、瀋陽、撫順、鞍山、長春、ハルビンを巡って工場や炭鉱・農村などを取材した。紅衛兵による長征隊の姿も捉え、大きな反響を呼んだ作品。リアルな表現を重視した時枝は、編集の際に長いカットを選びモニターを意図的に避けたという。

1967(岩波映画製作所) 監時枝俊江 吉原順平 藤瀬季彦 渡辺重治 安田哲男 末村朗洋 三善晃 伊藤惣一

35 3/14(木)19:00 3/21(木)16:00

文京区作品集 (計102分)

1975年から東京・文京区の企画のもと、時枝は郷土文化を題材に6本を連作した。第1作『文教の歩みをたずねて』では、江戸から明治にかけての教育の歩みをテーマに湯島聖堂や旧東京医学校などの遺構を巡る。第4作『建造物との対話』では、寺社や西洋建築などについて時代背景や建築様式を読み解く。第6作『ぶんきょうゆかりの文人たち』では、森鷗外の書斎・観潮楼を中心に、夏日漱石や樋口一葉など文人たちとの交流を描く。

文教の歩みをたずねて 文京の文化財

(30分・16mm・カラー)

1975(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 伊藤惣一

建造物との対話(34分・16mm・カラー) NEW

1980(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 伊藤惣一

ぶんきょうゆかりの文人たち 観潮楼

をめぐって(38分・16mm・カラー) NEW

1988(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 石原真治 伊藤惣一



新しいガス源をもとめて

36 3/15(金)16:30 3/17(日)13:00 3/21(木)19:00

伝統文化の記録映画集 (計77分)

新潟県の魚沼地域に伝わる麻織物を取り上げた『越後上布』では、原料である苧麻(ちよま)の栽培法から、上布が織り上げられるまでを丹念に撮影。現実音を用い、手織りする老婆の息遣いも含めて雪国の風土に培われた手工芸の真髄に迫る。国立劇場が企画した歌舞伎紹介シリーズの一篇『歌舞伎の魅力 舞台』では、市川海老蔵(十二代目・市川團十郎)による『貞操花鳥羽恋塚』の公演を取材して、準備から上演まで舞台装置に携わる人々の努力を描く。

越後上布(43分・35mm・カラー)

1980-81(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫

歌舞伎の魅力 舞台

(34分・35mm・カラー) NEW

1981(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 中谷英雄 佐久間俊夫 市川海老蔵 伊藤惣一

37 3/16(土)13:00 3/22(金)13:00

幼児教育60年代作品集 (計112分)

隠しカメラを使って4歳児の幼稚園入園から夏休みまでを記録した『ともだち』は、幼児教育をめぐる映画に対して時枝の足場固めとなった作品。大型機材の時代ながらも、音声に重きを置いて小さなつぶやきまで丹念に拾い、活かそうとする姿勢が特徴的である。『ケンちゃんたちの音楽修行』では、時枝は音楽教室で半年間のレッスンを取材し、編集時にピアノの音が週ごとに違うことに気付いて現実音を活かす重要性を認識したという。

ともだち(59分・35mm・白黒)

1961(岩波映画製作所) 編時枝俊江 編久保田義久 秋浜悟史 藤瀬季彦 安田哲男 三木稔 白井正明

ケンちゃんたちの音楽修行 ヤマハ音楽教室四才児初期の記録

(53分・35mm・白黒)

1965(岩波映画製作所) 監時枝俊江 坂口康 秋浜悟史 一 栗田尚彦、相田和成 佐久間俊夫、鈴木和彦 伊藤惣一

38 3/16(土)16:00 3/22(金)16:00

幼児教育70年代作品集 (計88分)

時枝がダイレクトシネマ的手法を推し進めた軌跡が見て取れる70年代の連作を上映。東京の区立幼稚園での自由保育の実践を記録した『学級集団の成長』では、約4週の間観察取材をしたうえ撮影を1週間行い、ある5歳児を軸に編集して保育士の視点からの解説音声も付けた。『子どもをみる目』は、同じ素材によるロングバージョンとして、幼児相互の関係性を俯瞰的に捉え、第三者的なナレーションを伴う。引き続き同じ園で撮った『光った水とろうよ』では、ナレーションを廃し、映像と現場音によって幼児の自由奔放な好奇心を観る者に体感させる。

学級集団の成長 ある教師の保育日誌から(21分・16mm・カラー)

1977(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 森田由紀子

子どもをみる目 ある保育者の実践記録から(45分・16mm・カラー)

1978(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 伊藤惣一

光った水とろうよ 幼児の知的好奇心をさぐる(22分・16mm・カラー)

1979(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫 伊藤惣一



ケンちゃんたちの音楽修行 ヤマハ音楽教室四才児初期の記録

39 3/16(土)18:40 3/22(金)19:00

幼児教育80年代作品集 (計86分)

幼児教育をめぐる多角的にアプローチした時枝は、80年代には幼児の主体的な成長を扱ったケース・スタディの作品群を発表。映像と音声を活かす試みを進化させながら、ナレーションの代わりに対話形式による解説音声も付けた。『このころをひらく』では、集団行動になじめない幼児たちの振る舞いから個々の心理を表すサインに着目する。『みどりぐみ』では、砂場を工事現場に見立てて活動する5歳児たちを通じて、幼児期の自己充実のための環境作りを考える。3歳児たちを取材した『みる、きく、たしかめる』では、視覚や聴覚を軸にして体験を広げていくさまを観察する。『いいこといいこと考えた』では、5歳児たちが箱積木やコマで遊びながら数量の概念を体得していく様子を描く。

このころをひらく 育ちあいをもとめる保育(21分・16mm・カラー)

1981(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫

みどりぐみ こ・う・じ・ば・ん・ば 幼児の自己充実をもとめて

(22分・16mm・カラー) NEW

1982(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫

みる、きく、たしかめる 創りだす自分のせかい(22分・16mm・カラー)

1983(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫

いいこといいこと考えた 遊びでひろがる数量の世界(21分・16mm・カラー)

1985(岩波映画製作所) 監時枝俊江 八木義順 佐久間俊夫

40 3/13(水)13:00 3/23(土)13:00

病院はきらいだ 老人の在宅ケアを支えるネットワーク

(137分・16mm・カラー) NEW

長野県の佐久総合病院による高齢者の在宅ケアの取り組みを2年間にわたり取材したドキュメンタリー。ケアを受ける側の様々なケースを取り上げながら病院チームの在宅支援システムを描き、老人介護を家庭の問題として矮小化せず地域コミュニティの課題として提示する。

1991(岩波映画製作所) 監時枝俊江 編今泉文字 八木義順 佐久間俊夫 石原真治 伊藤惣一

41 3/13(水)16:30 3/14(木)13:00 3/23(土)16:20

農民とともに 地域医療にとりくみ50年

(88分・16mm・カラー)

前作『病院はきらいだ』(1991)で取り上げた佐久総合病院について、1944年の設立以来の活動史をひもとき、高齢化と過疎化が進む中で地域医療の今後の在り方を示唆する。1990年代には総長を務めていた若月俊一が、院長に就任した1945年から農村医療を変革してきた軌跡を、病院附属映画部が撮影した50-60年代の記録フィルム等も挿入して構成した。

1995(岩波映画製作所) 監時枝俊江 小林茂 鈴木彰二 石原真治 伊藤惣一

42 3/15(金)13:00 3/23(土)18:50

地域をつむぐ 佐久総合病院小海町診療所から(125分・16mm・カラー) NEW

佐久総合病院の地域医療の最前線を担う小海町診療所に焦点をあて、65歳以上が人口の26%を占めるという高齢化を背景に、診療所スタッフたちの日常の実践を追う。在宅患者の看取りから、保健や福祉など隣接分野と連携するネットワーク作りまで、地域医療をめぐる課題も含めて取り上げた。

1996(「地域をつむぐ」製作実行委員会=岩波映画製作所) 監時枝俊江 編松山比呂子 小林茂 鈴木彰二 石原真治 伊藤惣一

小特集Ⅱ 藤原智子

藤原智子(1932-2018)は、日本映画新社在籍時にユーモラスなデビュー作『オランウータンの知恵』(1960)で評価され、フリーになって以降も美術映画の脚本などで力を発揮した。後年には、監督として近現代日本の女性史を取り上げた長篇ドキュメンタリーを精力的に発表した。

43 3/7(木)13:00 3/19(火)15:00

文化映画集 (計106分)

『歌舞伎の立廻り』では国立劇場の歌舞伎研修生向けの教材シリーズとして、見せ場となる格闘場面の「立廻り」について解説する。「立廻りの神様」と称された坂東八重之助による指導や演出プロセスなどを記録。『歌舞伎の後見』では、舞台上で役者の衣裳などを整えて補助する「後見」の役割について、稽古や公演の様とインタビューを通じて伝える。『誕生 その歓び』では、自然分娩に向けての日常的な心構えをテーマに、月数の異なる妊婦3名の生活を描きながら解説し、夫の立ち合い分娩なども含め現代的に変わってきた夫婦の姿も捉えている。

歌舞伎の立廻り(34分・16mm・カラー)

1981(桜映画社) 監修 藤原智子 編集 吉田栄子 撮影 植松永吉、村山和雄 出演 坂東八重之助、市村羽左衛門、中村橋之助、市川銀之助、尾上松鶴 相川浩

歌舞伎俳優研修教材シリーズ No. 8 歌舞伎の後見(44分・16mm・カラー)

1992(桜映画社) 監修 藤原智子 編集 吉田栄子、加納宗子 撮影 黒柳満、山屋恵司、木村光男 竹内三郎

誕生 その歓び(28分・16mm・カラー)

1986(桜映画社) 監修 藤原智子 編集 吉田栄子 撮影 植松永吉、木村光男 出演 瀬山平 川久保潔

44 3/5(火)15:00 3/7(木)19:00 3/20(水)13:00

杉の子たちの50年 学童疎開から明日へのメッセージ(100分・16mm・カラー) NEW

戦後50年を振り返り、疎開学童や引率教員、受け入れ地側も含め30人以上の証言を集めた作品。イギリスやドイツの疎開政策も踏まえて多面的に検証する。藤原智子は監督デビュー後に育児のためシナリオライターに専念したが、復帰して長篇第1作となった本作では同世代が体験した学童集団疎開を取り上げた。

1995(「学童疎開」記録映画製作女性の会) 監修 藤原智子 編集 吉田栄子、加納宗子 撮影 宮内一徳 宮崎尚志 武藤礼子



ルイズ その旅立ち

45 3/6(水)19:10 3/12(火)15:00

ルイズ その旅立ち(99分・16mm・カラー)

大杉栄とともに憲兵隊に殺害された思想家・伊藤野枝の四女で、市民運動家である伊藤ルイズの波乱の生涯とその晩年についてのドキュメンタリー。54歳から草の根の人権運動に取り組んだルイズは、74歳直前に癌の宣告を受けた際に延命処置を断り、自然死を選んだ。

1997(「ルイズ」製作委員会=フリー映像プロダクション) 監修 藤原智子 製作 銀川桂子 編集 吉田栄子、加納宗子 撮影 鈴木久雄 宮内一徳 原正美 武藤礼子

46 3/7(木)16:00 3/9(土)18:50 3/19(火)19:00

伝説の舞姫 崔承喜 金梅子が追う民族の心(89分・16mm・カラー)

現代韓国舞踊の旗手として国際的に活躍する金梅子を案内に、時代に翻弄されたダンサー・崔承喜の生涯を辿る。日本統治下の朝鮮で生まれた崔は、モダンダンスの石井漢に師事して1930年代に日本や欧米で公演して人気を博した後、1960年代半ばから消息不明となった。

2000(崔承喜の映画をつくる会=日本映画新社) 監修 藤原智子 製作 齊藤かおり 編集 吉田栄子、加納宗子 製作 大和史明 撮影 宮内一徳、海老根務、君塚常夫 出演 加古隆 金梅子、石井敏、金千興、石井みどり 杉本み

47 3/6(水)16:40 3/8(金)19:20 3/24(日)16:30

ペアテの贈りもの(92分・35mm・カラー) NEW

日本国憲法に「法の下での平等」と「家庭生活における両性の平等」を草案したペアテ・シロタ・ゴードンの功績と、それを受けての日本女性たちの地位向上の歩みを語り継ぐ。ゴードン本人への取材や戦後の山川菊栄や市川房枝に関する証言をはじめ、国際婦人年の背景も踏まえながら緒方貞子など要職を務めた女性たちに光を当てる。

2004(「ペアテの贈りもの」製作委員会=日本映画新社) 監修 藤原智子 編集 赤松良子 出演 岩田喜美枝 出演 落合良 出演 海老根務 出演 シロタペアテ・シロタ・ゴードン、原田芽子、前田薫、池田説子、山口みつ子、石原一子 宮崎絢子



伝説の舞姫 崔承喜 金梅子が追う民族の心

展示室(7階)

企画展 常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

和田誠 映画の仕事

Makoto Wada: Works on Film

2023年12月12日(火)ー2024年3月24日(日)

* 月曜日および12月26日(火)ー1月4日(木)は休室

主催:国立映画アーカイブ

協力:和田誠事務所、多摩美術大学アートアーカイブセンター

イラストレーター、デザイナーの和田誠が手がけた挿画や著書、収集した映画ポスター、そして監督を務めた映画作品などから、和田と映画の深い結びつきに光を当てます。

開室時間=11:00-18:30(入室は18:00まで)

料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)は無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

* 当館が主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

* 詳細は本展のチラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

トークイベントー《監督・和田誠》を忘れない!

土曜日開催

1月20日、2月10日、3月16日

* 詳細はホームページをご覧ください。

NFAJニュースレター第23号 ご案内

- 「映画作家・時枝俊江が捉えた音と画」筒井武文
- 「わらしこぼ」の頃 鷲樹丸(村上靖子)監督インタビュー 1階窓口にて販売中 320円(税込み)

チケット購入方法

	一般	高校・大学生・65歳以上	小・中学生	障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで)・キャンパスメンバーズ
チケット料金	520円	310円	100円	無料
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで			
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売			

* 電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトにてオンライン販売します。

* 料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。

* 学生、65歳以上、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方は証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

* 未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

* タイトルの横に*印が付いている作品は、公開当成人指定を受けた作品です。当該の上映回には女性

専用席を設けます。料金区分は通常の上映回と同じです。小・中学生券はございません。

入場方法

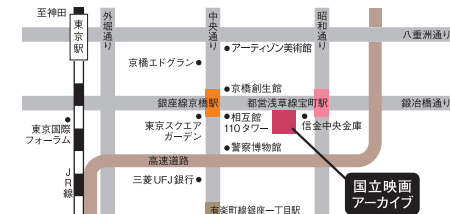
* 開場は開映30分前です。

* チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名は表示されませんので、お間違いのないようご注意ください。

* 各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



ペアテの贈りもの



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅八重洲南口より徒歩10分

* 上映をご覧になるお客様へ: チケットをお持ちのお客様も、開映後の入場はできません。お時間に余裕をもってお越しください。

お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600
ホームページ: www.nfaj.go.jp



日本の女性映画人(2)—1970-1980年代

Women Who Made Japanese Cinema [Part 2]: From the 1970s to the 1980s

2月	6	恋の浮島 (169分)	19:00	③ 遠い一本の道 (112分)	
	7	13:00 ⑮ メカゴジラの逆襲 (83分)	15:40	⑯ 大誘拐 RAINBOW KIDS (120分)	
	8	13:00 ⑭ 沖田総司 (92分)	15:40	⑰ それから (130分)	
	9	13:00 ⑲ ウンタマギルー (120分)	16:10	⑱ その人は女教師 (93分)	
	10	13:00 ③ 遠い一本の道 (112分)	16:00	⑳ 廃市 (106分)	
	11	13:00 ⑪ その人は女教師 (93分)	16:00	㉑ 沖田総司 (92分)	
	13	15:00 ⑭ 沖田総司 (92分)	19:00	⑫ 新座頭市物語 笠間の血祭り (87分)	
	14	13:00 ⑯ 鹿水晶子／木村智美* (計134分)	16:20	⑰ ビー・バップ・ハイスクール (95分)	
	15	13:00 ⑰ ダイヤモンドは傷つかない (104分)	16:00	⑬ 二十歳の原点 (88分)	
	16	13:00 ⑱ それから (130分)	16:20	② ねむの木の詩がきこえる (96分)	
	17	13:00 ⑬ 二十歳の原点 (88分)	15:30	⑰ ダイヤモンドは傷つかない (104分)	
	18	12:30 ⑮ メカゴジラの逆襲 (83分)	15:00	⑲ 恋の浮島 (169分)	
	20	15:00 ㉑ ミスター・ミセス・ミス・ロンリー (139分)	19:00	⑩ 映画をつくる女性たち (103分)	
	21	13:00 ㉒ 菊川芳江* (計147分)	16:40	⑫ 新座頭市物語 笠間の血祭り (87分)	
	22	13:00 ㉓ 黒い雨 (123分)	16:10	⑦ 若人よ いのちと愛のメッセージ (104分)	
	23	12:30 ⑯ 鹿水晶子／木村智美* (計134分)	15:50	④ 沖山秀子／珠瑠美* (計121分)	
	24	12:30 ② ねむの木の詩がきこえる (96分)	15:10	⑤ 曾根崎心中(1981年作) (88分)	
	25	12:30 ㉑ ミスター・ミセス・ミス・ロンリー (139分)	16:00	⑯ 大誘拐 RAINBOW KIDS (120分)	
	27	15:00 ㉒ 極私的エロス・恋歌1974 (93分)	17:40	⑥ 六ヶ所人間記 途中休憩あり (171分)	
	28	12:30 ④ 沖山秀子／珠瑠美* (計121分)	15:40	⑧ 浜野佐知* (計111分)	
	29	12:30 ㉓ アニメーション作品集 (計141分)	16:00	⑨ よみがえれカレーズ (116分)	
	3月	1	13:00 ㉔ 九條映子／田中未知 (計81分)	15:30	㉕ 修羅 (134分)
		2	13:00 ㉖ 出光真子 (計91分)	15:40	㉒ 朝倉大介(佐藤啓子)* (計123分)
		3	13:00 ⑩ 映画をつくる女性たち (103分)	16:00	⑦ 若人よ いのちと愛のメッセージ (104分)
		5	15:00 ㉖ 杉の子たちの50年 学童疎開から明日へのメッセージ(100分)	18:30	㉓ アニメーション作品集 (計141分)
6		12:30 ⑥ 六ヶ所人間記 途中休憩あり (171分)	16:40	㉗ ベアテの贈りもの (92分)	
7		13:00 ㉘ 文化映画集 (計106分)	16:00	㉘ 伝説の舞姫 崔承喜 (89分)	
8		13:00 ① 鷺樹丸(村上靖子) (計138分)	16:40	㉖ 出光真子 (計91分)	
9		13:00 ⑨ よみがえれカレーズ (116分)	16:00	⑩ 映画をつくる女性たち (103分)	
10		13:00 ㉕ 修羅 (134分)	16:30	㉔ 九條映子／田中未知 (計81分)	
12		15:00 ㉘ ルイズ その旅立ち (99分)	18:50	㉒ 大誘拐 RAINBOW KIDS (120分)	
13	13:00 ㉙ 病院はさくらだ 老人の在宅ケアを支えるネットワーク (137分)	16:30	㉚ 農民とともに 地域医療にとりくみ50年 (88分)		
14	13:00 ㉚ 農民とともに 地域医療にとりくみ50年 (88分)	15:30	㉛ 夜明けの国 (110分)		
15	13:00 ㉜ 地域をつむぐ 佐久総合病院小海町診療所から (125分)	16:30	㉜ 伝統文化の記録映画集 (計77分)		
16	13:00 ㉞ 幼児教育60年代作品集 (計112分)	16:00	㉞ 幼児教育70年代作品集 (計88分)		
17	13:00 ㉜ 伝統文化の記録映画集 (計77分)	15:30	① 鷺樹丸(村上靖子) (計138分)		
19	15:00 ㉘ 文化映画集 (計106分)	19:00	㉜ 伝説の舞姫 崔承喜 (89分)		
20	13:00 ㉖ 杉の子たちの50年 学童疎開から明日へのメッセージ(100分)	16:00	㉛ 夜明けの国 (110分)		
21	13:00 ㉛ 初期作品集 (計89分)	16:00	㉝ 文京区作品集 (計102分)		
22	13:00 ㉞ 幼児教育60年代作品集 (計112分)	16:00	㉞ 幼児教育70年代作品集 (計88分)		
23	13:00 ㉙ 病院はさくらだ 老人の在宅ケアを支えるネットワーク (137分)	16:20	㉚ 農民とともに 地域医療にとりくみ50年 (88分)		
24	13:00 ① 鷺樹丸(村上靖子) (計138分)	16:30	㉗ ベアテの贈りもの (92分)		

■*印の回は女性専用席を設けます。

■各日11:00に開館します。

表紙：ねむの木の詩がきこえる